ふるさとの誇り 168

博レポート

# 忘れたくない記憶
## ～荊沢空襲～

七月といえば、昭和二十年（一九四五）の七月六日の夜から七日の未明にかけて行われた甲府空襲が思い出されます。この時は、甲府市街地が大きな被害を受け、灰燼にきしています。

一方で、南アルプス市域には、アジア太平洋戦争による直接の被害はなかったと思われている方も多いと思います。しかし、記録をひもといてみると、もうひとつの空襲があったことがわかります。

それは、昭和二十年（一九四五）七月三十日。アメリカ軍の艦載機が、駿信往還（旧国道五十二号、現県道四十二号線）にそって南下し、現在の百々、上八田、鏡中条、甲西地区南部、そして富士川町の各地域を襲い、爆撃と機銃掃射による被害をもたらしました。

特に甲西地区の荊沢では、爆撃により民家二軒が破壊され、三人の子どもが亡くなる痛ましい被害を出しています。

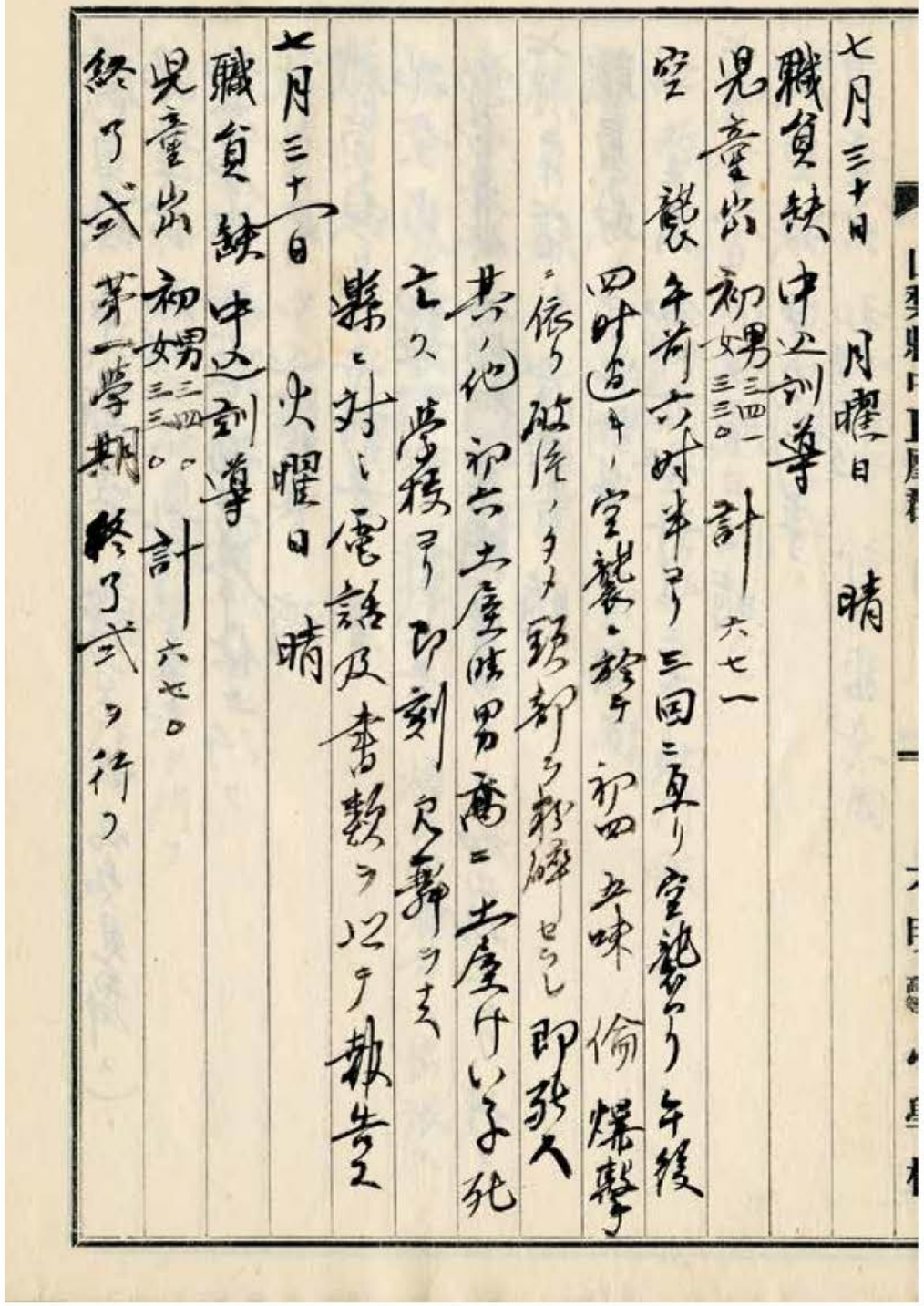
現在市が保管する、大明小学校（旧国民学校）の昭和二十年度の『学校日誌』の同日の項にも、

「午前六時半ヨリ三回ニ亘リ空襲アリ
午後四時迄デノ空襲ニ於テ　初四　五味倫
爆撃ニ依リ破片ノタメ頭部ヲ粉砕セラレ
即死ス　其ノ他　初六　土屋晴男　高二
土屋けい子　死亡ス　学校ヨリ即刻見舞ヲ
ナス　県ニ対シ電話及書類ヲ以テ報告ス」

と記され、当時の国民学校初等科四年生の五味倫（九）さん、同六年生の土屋晴男（十一）さん、高等科二年の土屋けい子（十五）さんが亡くなったことがわかります。土屋晴男さんとけい子さんは姉弟でした。

戦争による直接の被害がなかったかに見える南アルプス市域でも、このような痛ましい事件があったことは記憶に残しておかなければなりません。そしてアジア太平洋戦争全体を見渡せば、市域出身のじつに千三百人以上の人々が世界各地で戦死したともいわれています。

文／写真　文化財課



七月三十日　月曜日　晴
職員缺　中込訓導
児童出　初男 三四一 三三〇　計　六七一
空襲　午前六時半ヨリ三回ニ亘リ空襲ヲ受ク　午後
四時迄ニ　空襲ノ為メ　初四　五味倫　爆撃
ニ依リ破片ノタメ頭部ヲ粉砕セラシ　即死ス
其ノ他　初六　土屋晴男　高二　土屋けいこ　死
亡ス　学校ヨリ即刻　見舞ヲナス
県ニ対シ電話及書類ヲ以テ報告ス
七月三十一日　火曜日　晴
職員缺　中込訓導
児童出　初男 三四〇 三三〇　計　六七〇
終了式　第一学期終了式ヲ行フ

昭和20年（1945）7月30日の大明小学校の学校日誌

※※各学校に備えられ、日付や天気とともに学校の動静やその時々の出来事が記される。

※7月7日にかけて行われたことから「たなばた空襲」ともいわれる。

市に残される、戦時中の大明小学校（旧国民学校）の学校日誌

空襲があった付近の現在の様子（南アルプス市荊沢）

開催中！

ふるさと文化伝承テーマ展
戦争と　にしごおりの人
七月二日（金）～九月二十九日（水）　木曜日休館
ふるさと文化伝承館　☎〇五五―二八二―七四〇八